



## 昔のお金「1文」は、今のお金で何円なの

### いろいろな種類のある1文銭

昔のお金1文には、いろいろな種類があります。古代の政府は、708年に日本最初のお金である「和同開珎」をつくりました。この和同開珎の発行から958年の乾元大宝まで12種類の銅銭をつくりました。これを皇朝十二銭といいます。それ以後は、日本では銅銭はつくられませんでした。鎌倉時代から江戸時代のはじめまで、人々が使ってきたお金は、中国から輸入した渡来銭というものでした。

こうして長い間、日本の人々に使われてきたお金は、銅銭だけで、どれも1枚1文でした。1文より大きな単位のお金はなかったので、値段の高い買い物をするときには、1文銭を大量に持っていかなければならず、重くてかさばるし、とても不便でした。

このように1文銭は、時代によっていろいろに変化していますから、1文が今のお金でいくらになるか、簡単には答えられません。

### お金の制度を定めた江戸幕府

江戸幕府は、お金の制度を定め、日本全国のお金の統一をはかりました。新しく小判や1分金、1朱金、寛永通宝という銅銭などをつくりました。小判1枚で1両、1両は4分、1分は4朱と決めました。また、小判1枚が銅銭4000枚分の値打ちと決めました。

江戸時代の終わりごろに旅行した人の日記をみて、1文がいくらになるかを計算した人がいます。その人の計算によると、1文は6円ぐらいとなっています。別の資料を見て計算した人は、1文は10円ぐらいだろうとっています。(監修・田代 脩)

